



宗門の誇り

東京都 山内舜雄先生

と晋住され、大慶至極にて今や世代の交代のすみやかなるを痛感すると共に、来るべき新世紀への御活動を切念するところです。

宗門多端とは申せ黒田武士師如き人物が十人おりますれば、何のことはない、と私は思っています。

善光寺様の宗内外の御活躍はまことに宗門の誇りとも言ふべきもの、殊に海外留学生へのご支援はまことに世紀の快挙として宗史に止むべきものと思われます。

定年後は少閑を得て著述に邁進致しましたが積年の怠惰は如何ともなし難く遅々としてはかどらず老齡を嘆ずるのみ。

貴師の御活躍に呼応するかの如く石附周行師も大雄山へ

それにしても有為の宗門人材を輩出した光純師を始めとする白純老師傘下の御活躍を見るにつけ、私は宗門未だ滅びずの意を強うすると共に、私に出来ることは『眼蔵』参究以外にないと老眼をこすりながら老骨を鞭打ちながら著述に努めています。あと二、

三年はつづける所存です。白純老師の御行蹟の一端を書くかかります。何とか果したい。とりあえず拙著への御芳志の儀重ねて御礼申し上げます。

安居修行は四人

ドイツ大悲山普門寺

アイゼンブッフ禅センター

堂頭 中川正壽老師

多大なる御支援を蒙りまして、この度本堂落慶の運びとなりました。厚く厚く御礼申し上げます。前角老師の掛軸表装有難く存じました。御本尊

様、法具類と、私たちを守って下さっています。

九月五日、渡欧中の南沢道人監院老師御一行にお越し頂いて、本堂落慶の祝典を執り行なうて頂きました。あいにく雨模様の日となりましたが、摂心参加者を中心に約七十人程が本堂に集まりました。

本堂は別館にあった屋内プールを改造したもので九八平方メートル。別館の二階は部屋数二〇で宿泊者用、一階はいま工事中で完成すれば、南の庭に面した食堂兼リビングホール、レセプション、台所となります。一階二階それぞれ

れ三二〇平方メートル、合わせて六四〇平方メートル。この工事には上下水配管取替え、暖房設備、各部屋についているトイレ洗面シャワー室、まったく新しい台所施設の設定などが含まれています。十月末までには一応の改修工事の完成を見る予定です。

そして十一月よりは、いよいよ普門寺第一回の安居修行に入るべく志を新たにしております。ただ今常住の修行者は私を入れて男ばかりの四人、堂頭、副寺、典座、直歳を勤めております。

この別館の隣にあり、将来

は衆寮、客室、第二本堂、図書室、作業室を提供する本館は、一階二階とで四八〇平方メートルありますが、これまた大変老朽しており、屋内各所には雨漏りがあり、まずは早急に屋根の改修を必要としています。しかし、工事資金の目途はなく、引き続き各方面からの資金援助を仰いでいます。

申すまでもなく、このたび私たちが普門寺落慶の祝儀を執り行ない得ましたことは、ひとえに絶大なる御支援を賜りました宮崎奕保不老閣宛下を初めとして、全国各地からご浄財を賜りました皆様方の

ご支援に依るものであります。普門寺山内一同、ならびに有縁の参禅者一同、心より日本からのご支援に深謝申上ります。

「梵刹の現成を願せんにも、人情をめぐらすことなかれ、仏法の行持を堅固にすべきなり。修練ありて堂閣なきは古仏の道場なり。露地樹下の風とほくきこゆるなり。この処在ながく結果となる。まさに一人の行持あれば、諸仏の道場につたはるべきなり。末世の愚人、いたづらに堂閣の結構につかるることなかれ。仏祖いまだ堂閣をねがはず。自己の眼目いまだあきら

めず。いたづらに殿堂精藍を結構する、またく諸仏に仏字を供養せんとはあらず、おのれが名利の屈宅とせんがためなり。」(行持の巻、下)

不肖、学なく行疎かなる身にして、高祖道元禅師のこのみ教えに導かれて長年励んで参りましたが、二年前在独十八年目にしてこの任に当たりました。今後とも何卒より一層、ご法愛ご指導を賜り、ご支援いただけますように伏してお願ひ申し上げます。

合掌

一九九八年九月九日

うたた感慨

東京都 福井文雅先生

一昨年四月、一年有余のパリ滞在から帰国いたしました。その後すぐ、ハンガリー・ブタペストの東方学国際会議と、在仏中に娘の在学保証人であった親友宅の結婚式に招かれフランス・ブルターニュに娘連れで出かけました。その間に身辺に思いがけない変化がおこったりしまして、季節の御挨拶をさしあげる機会を逸してしまいました。長らくの御無沙汰どうかお宥し下

さい。一昨年春までのことは、

「フランス東洋学の昔と今」

(『東洋の思想と宗教』15号)、

「パリでの俺お前」(早大文学

部報『りてら』27号)、「ベル

ナル・フランク教授の御葬

儀に参列して」(日仏東洋学会

通信21号)、「フランス極東学

院院長旧友ロンバル君の急

逝を悼む」(同22号)などに書

きました。娘はパリの16区

ラ・フォンテーヌ高校時代の

旧友達と文通等々で親交をつ

づけています。その姿に私は、

三十数年前にオランダ貨客船

で渡仏した自分の給費留学生

の頃を思い合わせ、うたた感

慨に堪えないものがありま

す。

どうぞお大事にお過ごし下

さい。

「大いなる仏陀の遺産」

東京都 田村 仁様

私は昨年(一九九七年)十二月から半年間、タイ、ミャンマー、カンボジア、ベトナム、ラオスを取材してきました。アンコール王朝の全盛期とその末裔たちの取材でした。今年中になんとか刊行したく、今は原稿書きをしています。十一月には双子の小象をテーマにした写真絵本を

また藤田一照師とは『大法輪』誌へ連載されていましたが文章を拝読させていただきましたのがご縁で、何回か文通させていただきました。

故志保見老師様のことは、昔、中外日報の記事で何回も拝読し、積極的で行動力ある剛僧・武道家という印象を受けておりましたが、早逝され残念でございました。神戸の地震で八王寺様は大損害を受けられました由ですが、先般立派に改築されたとの新聞記事を拝読いたしました。現住様の道元師様も、そのご令弟様も武道家であられたと存じます。

故前角老師様の永年のご努力が実を結び、米国に禅が根付きましたことを改めて知り、感動いたしました。弟子丸師の禅がフランス人のお弟子さん方により、フランス流とは存じますが、今日まで伝えられていることはすばらしいことと存じます。現在は、米国人による米国人の仏教の時代に入っております由、国情や民族性に合ったメソッドでサンガを継続・維持するという見地から、先般のご晋山式も行われましたことと拝察申し上げます。

故前角老師様のご冥福とご遺弟の方々の益々のご活躍を

心よりお祈り申し上げます。

奠掃衣奉獻

長野市 齊藤幸子様

この度、板橋興宗禅師様奠掃衣奉獻に際しまして、いろいろと御配慮をいただき誠に有難く厚く厚く御礼を申し上げます。

十年前頃梅花講員として六十片の一片を縫わせて頂いたことがあり、又、岡本好文尼の指導で絡子の講習を受け、その時三日目午後は用があり早く帰りましたので、黒田様とお逢いすることができません

んでした。その時より一番フ
 アンの板橋禅師様に糞掃衣を
 差し上げることができたらと
 心の中で思っておりました。

板橋禅師様との出会いは昭
 和五十二年十一月能登祖院
 で、当時娘の中学校PTA読
 書会で、正法眼蔵随聞記典座
 教訓の校註書を信濃教育会出
 版部より発行した元教師を月
 一回招いて講義を聞いてお
 り、その先生が夏期坐禅講習
 会の時板橋禅師様のうわさを
 耳にして、是非お目にかかり
 たいと読書会員を伴ない永平
 寺で一泊、翌日半数の同伴で
 能登祖院に参禅しました。先
 生は一度お逢いした板橋禅師

様を偉いお坊様になるとおっ
 しゃっておいででした。

昨年、副貫首になられたこ
 とが大乗寺便りでわかり、菩
 提寺も同じ、又同寺の中道会
 員でもある大越様に協力をお
 願いいたした次第です。右の
 ご縁により池沢様のお力によ
 り完成ができましたのです。
 本当にいろいろとありがとう
 ございました。

コンピューター時代こそ
 感性を豊かに

小田原市 安藤康哉老師

私たちの先人は飛花落葉に
 喜怒哀楽をうつし、しみじみ

と人生を感じ、花の心にひか
 れ、花から多くのことを学び
 大いなる自然の数々の姿をわ
 が人生と感得してまいりまし
 た。まさに「山花開いて錦に
 似たり、溪水湛えて藍のごと
 し」として人と自然とが一体
 となつて共存してきたわけで
 あります。

ところが現在、技術革新と
 いう大洪水がこの地球を大自
 然を濁流のごとくひとなめに
 しようとしています。もとも
 と人は他者との関わり合い、
 共いきの中に生存していま
 す。そしてその生存の懸け橋
 になるのが言葉です。内面的
 にせよ外面的にせよ人と人と

の交流は人の心を吐露する言葉
を媒介としてお互いの感応
道交が生まれてきます。

はじめに、ことばあり、こと
ばは神とともにあり、こと
ばは神なりき — ヨハネ伝
愛語よく廻天の力あること
を学すべきなり — 道元禅師

ところが現今、この言葉に
代わってコンピューターとい
う媒介が大手を振るいはじ
め、人と自然とのきずなをロ
ボットかマシンマンのような
物体が機械的に操作をはじめ
ました。その結果、人間本来
の姿が不透明な存在として意

識されるようになってしま
いました。不透明な存在として
の人間はまさに人間失格、お
互いが信じあえない意味不明
な存在となつてしまします。
ほんとうにこんなことになつ
てしまったら人間の存在さえ
危うくなつてしまいます。で
すから私たちは真の人間性に
たちかえり、自由な天真爛漫
な心を取り戻したいと叫びた
いのです。

そこで、私は坂村真民先生
の『二度とない人生だから』
という詩を口ずさんでみまし
た。

『二度とない人生だから』
二度とない人生だから —

輪の花にも

無限の愛を そそいでゆこ

う

一羽の鳥の声にも 無心の

耳を

かたむけてゆこう

二度とない人生だから つ

ゆくさのつゆにも

めぐりあいのおしぎを思い

足をとどめてみつめていこ

う

この詩から私たちは人間の本
当の心を取り戻し、その情感
を深く味わってみたいと思
います。

私もご縁をいただき華綾の

園に奉職させていただきました。ほんとうに有り難い不思議なめぐり合いだと心より感謝しています。そして日々、

子供たちの心の純粋性に接している、自分がいつしか無心のふるさとに帰っていくような思いと、また、先生方の明るい真摯な保育の姿勢とその情熱に心熱きものを感じています。

さて今年は何に大きくはばたいて共に頑張っていきたいと思えます。一輪の花に無限の愛をそそぐように、子供たちにそうしたやさしい心で、もつともつと接していただければ、また子供たちの叫び声

や、声なき声にも無心の耳を傾けていくことができたら――ほんとうにすばらしいことですね。

私も大雄の森に立ち入っては少しづつ感性を取り戻し、人間の真実義を追及し続けていこうと願っています。また良寛さんが子供と手まりをして無心に遊んだ境地にまではとでもたどりつけませんが、私は今唐突な発想と思われるかも知れませんが、ピアノの勉強を始めました。ピアノの先生が七月に発表会をしようと思気込んでいますが、果たして出来るかどうか？ でも頑張ります。

今年も、和顔愛語を合い言葉に、そして感性を豊かに頑張らましよう。

素直で明るい人に

大平れい子様

黒田老師様、このたびは立派な本をありがとうございました。いつも私は心から嬉しく楽しみになります。じっくりと読ませていただきます。老師様の優しい心を私は決して忘れません。

このあいだ私は母と一緒に比叡のお山に行つて来ました。とっても嬉しく楽しかった。

たです。伝教大師最澄様が守
つてくれているような気がし
て感動しました。一隅を照ら
し己を忘れて他を利する慈悲
の極みの大切さをしみじみと
感じると共に、いつも心に受
けとめ人に愛を与える人にな
ろうと感じました。私は日蓮
上人様の「蔵の宝よりも身の
宝、身の宝よりも心の宝第一
なり」のお言葉をいつも思い
出し、実行しようと思ってい
ます。いつも仕事に行ってい
て悲しい時、辛い時は、黒田
老師様の托鉢の自己の闘いや
成寿を読み、思い出して元気
を出しています。

仕事の休みの日に母とデパ

ートに行き、レストランで食
事をしたときのことです。ド
キッとする言葉が掲げてあり
ました。「頭の良い子よりも素
直で明るい子になれ」とあり
ました。私は涙が出そうにな
りました。そのとおりです。
私はその心を忘れてしまし
た。素直で明るい心をです。
ひたすらに難を忍び正法を弘
め国を救い人々を助けて尊い
生涯を貫き通された日蓮上人
様の生き方に学び、素直で明
るい人にならなければと心か
ら思いました。

